



SCSKグループ技術戦略

技術ビジョン2030



SCSKグループ技術戦略

技術ビジョン2030

CONTENTS

技術ビジョン2030 デジタルオフリング集団への変革

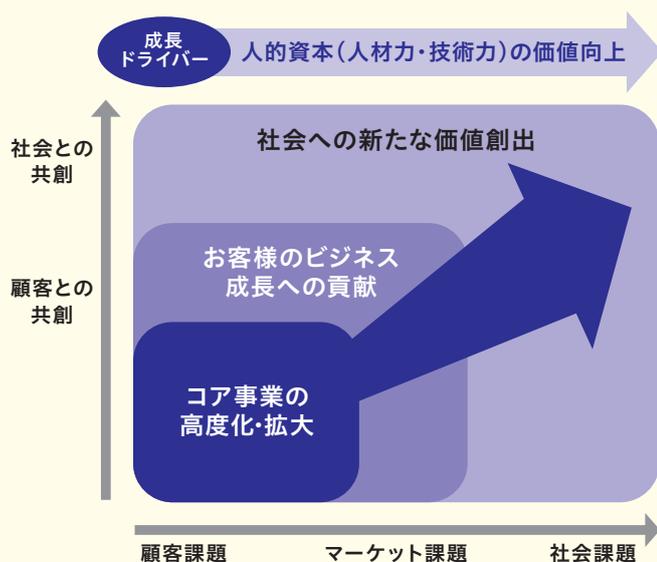
「共創ITカンパニー」の実現に向けた技術戦略	3
技術ビジョン2030 : GOALS	4
注力デジタル技術領域	5
自社製品・サービスのAIインテリジェント化	6
AI駆動型開発による開発業務革新	7
お客様のビジネスに機動力・柔軟性をもたらすクラウドネイティブ	8
UXデザインとテクノロジー・ビジネスの融合	9
ビジネスチェーンを支えるサイバーセキュリティサービスの高度化・拡充	9
技術共創による先端技術の事業化推進	10
デジタルオフリングビジネスを支える技術知財	11
デジタルケイパビリティの強化・拡充	12



技術ビジョン2030 デジタルオフリング集団への変革

「共創ITカンパニー」の実現に向けた技術戦略

SCSKグループは、お客様やパートナーと共に社会課題の解決に貢献するビジネスを作り出す「2030年共創ITカンパニー」の実現に向けて、コア事業の高度化・拡大、お客様のビジネス成長への貢献、社会への新たな価値創出への取り組みを進めています。



また、中期経営計画（FY2023-FY2025）では、『事業変革と持続的成長に向けた事業シフトを断行』・『成長市場において、市場をリードする事業を推進』・『社会との共創による「次世代デジタル事業」を創出』の3つを基本戦略に掲げ、技術ドリブンによる経営基盤強化を推進しています。

「共創ITカンパニー」の実現に向けた取り組みを加速するために新たにSCSKグループ技術戦略『技術ビジョン2030』を策定しました。技術ビジョン2030においては、先進デジタル技術の最大活用による「高付加価値」・「高生産性」・「社会課題・トレンド対応」を実現すべく、具体的な取り組み方針を示しています。

「技術ビジョン2030」では「デジタルオフリン

グ集団への変革」を目指す姿として設定しています。この変革を実現するためには、「先進デジタル技術」に加え、オフリングの要である「技術知財」と当社グループの目指す姿「共創ITカンパニー」につながる「技術共創」の3つの要素が不可欠です。これらの要素を融合させることで、より高い価値を創出し、迅速かつ効果的に多様な社会のニーズに応えていきます。

具体的には、先進デジタル技術の利用価値を企業・社会で実体験できるよう当社グループの製品やサービスに組み込み、ソリューションとして市場に提供していきます。その中で得られた知見・ノウハウは知財化し、さらなる活用を進める「価値循環」を行っていきます。

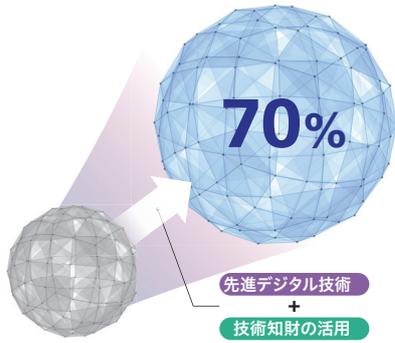
また、多様なステークホルダーとの共創（共同研究・協業など）にも取り組み、お客様や社会の課題に対応する新たなソリューションを開発・展開するなど、「デジタルオフリング集団への変革」を推進いたします。

さらに、高度デジタル人材の強化・拡充を一層進めるなど、人的資本の強化を図り、デジタルビジネスにおけるケイパビリティを向上させます。



技術ビジョン2030 : GOALS

デジタルオフリング事業比率**70%**以上の実現



企業活動や社会生活におけるデジタル技術の利活用はさらに拡大していきます。その中で、日々進歩するデジタル技術の特徴を最大限活かすことによって、業務の効率化や顧客体験の向上などの価値提供が企業には求められます。当技術戦略で掲げるデジタルオフリングでは、AI/データを中心とした先進デジタル技術の利用価値を、UXデザインの適用により実現することを目指します。同時に、長年にわたり蓄積してきたビジネスノウハウや技術知見も活用し、自社の知財化を一層進めることで、迅速なビジネスやサービスの立ち上げを推進します。このような取り組みにより、2030年にはデジタルオフリング事業比率を70%以上とすることを目指します。

AI駆動型開発の**100%**適用



生成AIの登場は非常に大きなインパクトを市場に与え、多くのビジネスプロセスに変革をもたらしつつあります。ITサービスの分野も例外ではなく、当社グループでは生成AIを活用した『AI駆動型開発』の実現に向けた取り組みを進めています。当社グループにおける『AI駆動型開発』は、設計・開発だけでなく、戦略や企画構想段階からシステム運用・業務運用までのライフサイクル全体を対象とし、プロジェクトマネジメントやサービスマネジメントの領域も視野に入れていきます。2030年までには『AI駆動型開発』の100%適用と生産性の50%向上を図ることにより、スピーディーなITサービスの市場投入を実現し、ビジネスの競争優位性を高めることに寄与します。

高度デジタル人材**10,000人**への拡充



デジタルビジネスの対応力を高めるためには、デジタル技術に長けた技術者だけでなく、お客様のビジネスや業務に関する深い専門知識を持つ人材や、ビジネスの実現を推進・支援できる人材も求められます。当社グループは、これまでも高い専門スキルを持つ人材の採用や、専門能力向上のための様々な社内制度の整備を進めてきましたが、これをさらに強化・加速し、2030年には高度デジタル人材10,000人体制の実現を目指します。また、当社グループ内の人材だけでなく、デジタル領域のパートナーシップや提携による外部協業体制も拡充し、強固なデジタルオフリングビジネスの実行基盤を築きます。

注力デジタル技術領域

当社グループは、「共創ITカンパニー」の実現を目指すにあたり、高付加価値や高生産性の実現、社会課題・トレンドへの対応が必要と考えており、これらを促進するために6つの注力デジタル技術領域（「AI/データ活用」・「クラウドネイティブ」・「UXデザイン」・「生産技術」・「サイバーセキュリティ」・「先端技術」）とその取り組み方針を当技術戦略において決めました。

注力領域の中でも、「AI/データ活用」を最大のテーマとしています。この10年程の間で急激に進化・普及した多様なAI技術・データ活用技術の適用を最大化するとともに、他のデジタル技術と組み合わせることによりソリューションを実現していきます。

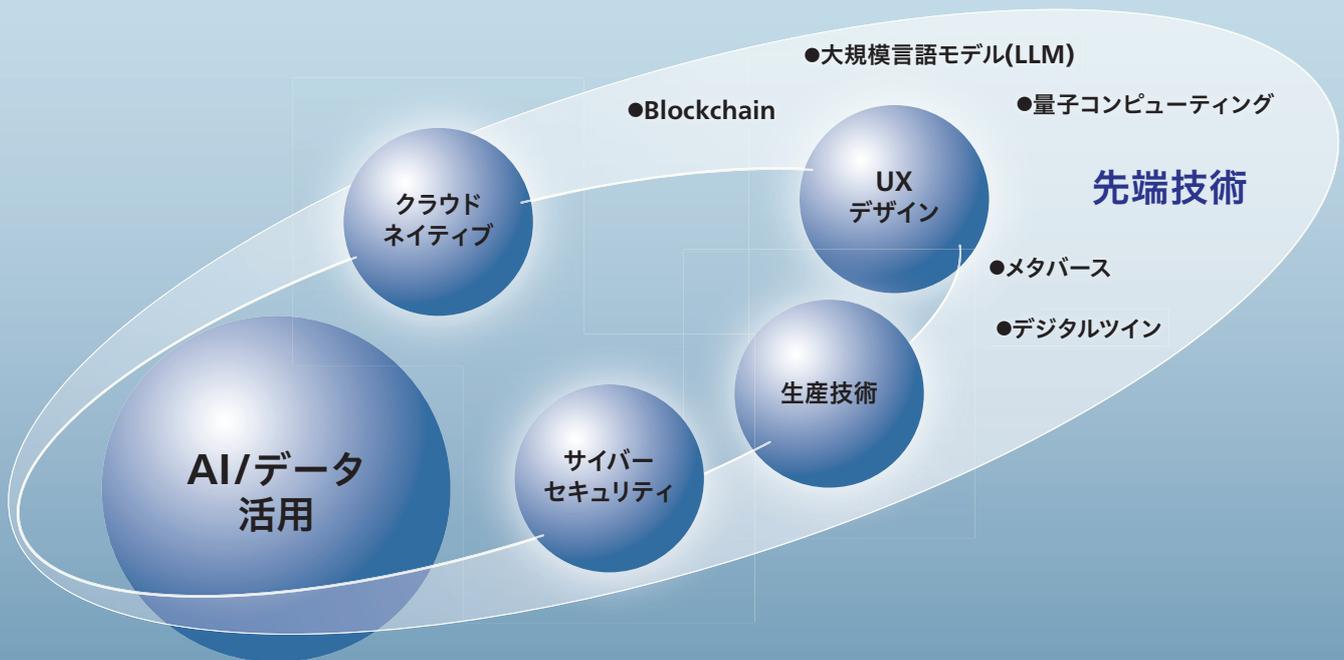
具体的には、「AI/データ活用」によるビジネスやサービスを実現する場合に、戦略や企画構想といった段階から「UXデザイン」を適用することにより、その利用価値を早い段階から明確化し、付加価値の向上に繋げる取り組みを進めます。また、策定された企画構想は具現化するITサービスとして実装することにより、実際に価値の体験を行うことができますが、そこではアジャイルやリーンのような手法と合わせて、時機を逸せず迅速かつ柔軟にビジネスサービスの提供が行える「クラウドネイティブ」技術の活用がポイントになります。

また、生産性向上が常にテーマアップされる「生産技術」領域では、当社グループの技術力を結集し、生成AIを活用し生産性を劇的に向上させる「AI駆動型開発」に取り組んでいます。生産性向上によるデリバリーのスピードアップを図り、お客様のIT化の効率化や迅速な事業展開に貢献するとともに、開発者エクスペリエンスの向上に努めます。

さらに、世界的に課題となっている高度化・巧妙化するサイバー攻撃に対応するため、「サイバーセキュリティ」領域の先端技術の獲得・ソリューション化を推進し、お客様や社会の安心・安全の実現に取り組めます。

これらの技術以外にも、様々な「先端技術」があり今後の利用が期待されています。この領域では、オープンイノベーションを軸に様々なステークホルダーとの共創を推進するとともに、事業活用に向けた技術投資を強化し、先駆的な技術を取り入れていきます。

SCSKグループは、革新する技術に対応したデジタルオフアリングを推進し、お客様や社会に対して常に新たな価値を創出・提供していくことを目指します。



自社製品・サービスのAIインテリジェント化

AIによるデータ活用の高度化と生成AIを用いた業務変革が進展し、社会や事業環境に大きな変革をもたらしています。企業や組織はこれらの技術を取り入れることで競争力を強化し、効率性を向上させることが求められています。

このような背景の中、当社グループは約8,000社に及ぶ多種多様なお客様へのITサービスの提供を通じて蓄積したノウハウを基に、データビジネスやAI活用を支援し、お客様のビジネスや業務の変革をサポートしています。これにより、産業全体の競争力を強化し、社会全体の効率化と持続可能性の向上、さらには様々な社会課題の解決を目指しています。

具体的な取り組みとして、AI活用金融サービス「BankSavior®」や「CARDSavior」は金融取引における不正検知の精度向上を実現しており、より安全で信頼性の高い金融サービスを享受できる環境を整えています。また、クラウド型のコンタクトセンターサービス「PrimeTiaas」では、AIの活用により業務効率と顧客対応品質を向上させ、迅速かつ確かな対応を可能とすることで顧客満足度の向上に繋がります。

また、当社オリジナルのERPパッケージ「ProActive」へのAI搭載も進め、お客様の業務プロセスの効率化と最

適化を実現することで、ビジネスの競争力を一層強化します。加えて、企業内・企業間のデータ活用を伴うデジタルサプライチェーンの実現を支援する「atWill」は、データ活用基盤の高度化と提供対象の業種拡大を進め、様々な業界のお客様のデータビジネスを支援します。

さらに、MaaS、スマートシティ、GX、ヘルスケアなど、社会課題に直結する領域に対するサービスにもAIとデータ活用機能を積極的に組み込んでいきます。移動の利便性を飛躍的に高めるMaaSの技術は、スマートシティの実現など変化する生活環境を支えるサービスの実現に寄与します。環境負荷の低減がテーマとなるGXにおいては、企業のサステナビリティ戦略を強化し、脱炭素社会の実現をサポートします。また、機微な情報を取り扱うヘルスケア分野では、大量で複雑なデータを処理できるAI/データ活用基盤の活用が進んでおり、人々の健康増進への寄与に高い期待があります。

これらの取り組みにより、当社グループはお客様のビジネスにおける迅速な意思決定をサポートするとともに、社会課題の解決に貢献します。私たちは、AI技術を駆使した革新的なソリューションを提供し続けることで、未来を切り拓く共創ITカンパニーとして、お客様と共に成長し続けます。



AI駆動型開発による開発業務革新

企業が長年にわたり構築してきたシステムは、今や大規模かつ複雑化しています。このようなシステムをより効率的に運用・保守するためには、先進的な技術の導入が求められています。また、変化の激しい市場環境に迅速に適応するためには、効率的なシステム開発を通じて新製品やサービスを迅速に市場へ展開する能力が重要となります。生成AIは、こうしたニーズに対応するための革新的な技術として大きな可能性を秘めており、多くの企業がこの技術を導入し、開発業務の効率化と競争力の強化を図っています。

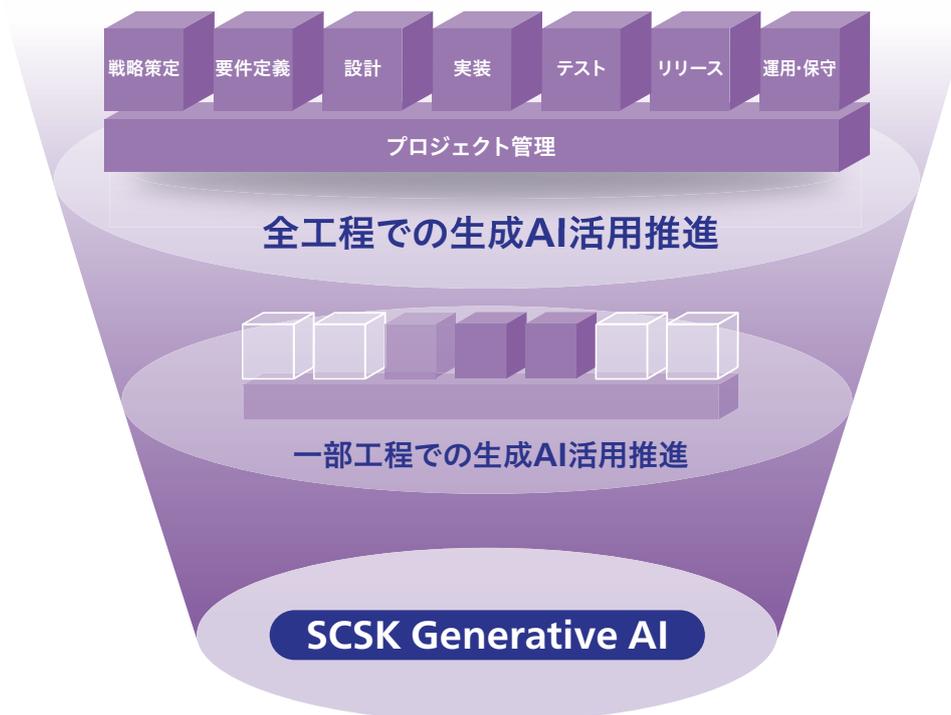
当社グループでは、全社標準「SmartEpisode Plus」と開発プラットフォーム「S-Cred⁺」を整備・展開を進め、開発生産性の向上に取り組んできました。現在、これまでに蓄積された当社の豊富な開発ノウハウを基に生成AI「SCSK Generative AI」を活用し、「S-Cred⁺」と組み合わせ、『AI駆動型開発』の実現を目指しています。すでに車載システムのモデルベース開発やお客様のシステム開発において生成AIを活用し、要件定義書の作成業務の効率化やソースコードの修正サポートなどにより、開発工数の大幅な削減に成功しています。

今後は、生成AIの活用をシステムライフサイクル全体

に広げ、プロジェクトやサービスのマネジメント領域にも適用を進めていきます。これにより、包括的な生産性の向上を図り、開発期間の短縮を実現することでITサービスの市場投入までのスピードを加速させ、競争優位性を高めることを目指します。また、システム運用への生成AI適用により効率が向上し、運用コストの削減が期待できます。

AI駆動型開発は、効率的なITサービス業務（開発・保守・運用）を実現し、社員が創造的な業務にも取り組むことができる環境を提供します。これにより、イノベーションが一層促進され、新たなビジネスモデルやサービスが次々と生まれる可能性が広がります。こうした取り組みを通じて、お客様のビジネスの成長と持続可能な発展を強力に支援します。

当社グループは、多様な人材が活躍する、より豊かな未来社会の実現を目指し、2030年までに『AI駆動型開発』の適用率を100%に引き上げ、開発生産性を50%向上させることを目指しています。製品・サービスを創出するプロセスが大きく変わっていくこの新しい転換を、SCSKは加速させていきます。



お客様のビジネスに機動力・柔軟性をもたらすクラウドネイティブ

激しい環境変化に対応するためには、社会や事業環境の変化に迅速に適応し、サービスをすばやく投入・修正できる敏捷性が求められます。VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) の時代においては、効率的な開発、小規模で迅速な機能修正・リリース、そして柔軟なコスト管理が重要です。このため、アジャイルやDevOpsを採用した機動力のある開発手法が重視されます。クラウドのスケラビリティやレジリエンス、コンテナ化・マイクロサービス化の技術によりシステムの柔軟性を高めることが必要です。クラウドネイティブなアプローチは、こうした環境変化に迅速に対応できるアプリケーションシステムの実現を可能にします。また、クラウドネイティブ技術は、プラットフォームエンジニアリングとして注目される新たな開発方式にもつながっており、アプリケーションシステムの実現・市場投入のスピードアップを実現します。

当社グループでは、クラウドシフトが進む市場環境に対応するために、クラウドネイティブ環境の拡充に先行的に取り組んでおり、豊富なアプリケーション開発の知見とパー

トナー企業の専門知識を組み合わせたクラウドネイティブソリューションを提供し、お客様のビジネスに機動力と柔軟性をもたらします。外部パートナーとのエコシステムとして開発したNebulaShiftは、当社オリジナルの開発プラットフォームS-Cred⁺を基盤として展開しており、これにより、迅速なサービス投入、機能修正の容易さ、柔軟なコスト管理を実現しています。また、AWSをはじめとしたマルチクラウドに対応したクラウドネイティブプラットフォームの整備も順次進めることにより、お客様のITシステム環境に更なる拡張性と俊敏性を提供します。

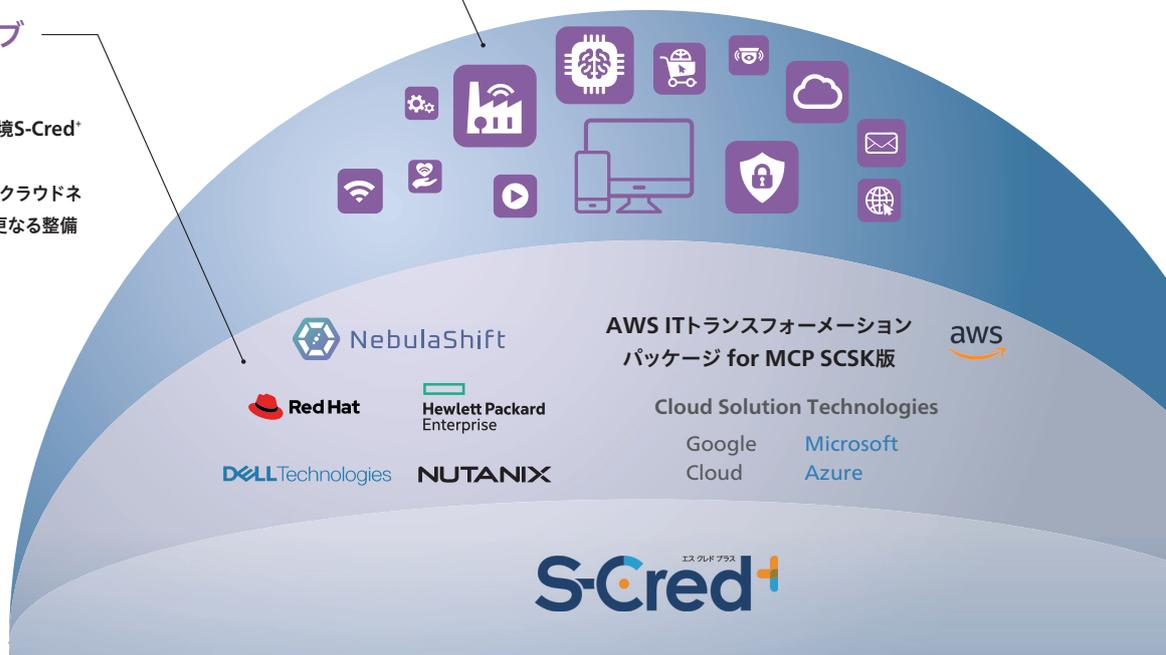
既に大規模なクラウドネイティブ・アプリケーションシステムの開発も進めており、また自社製品・サービスの実現においてもクラウドネイティブの利用を促進し、APIサービスなどの知財化も推進しています。これにより、再利用可能なコンポーネントを増やし、開発効率を向上させるだけでなく、新たなサービスの迅速な立ち上げが可能となります。これらの知財を活かし、さらにお客様のビジネスへ還元することで、持続的な競争力の強化をサポートします。

クラウドネイティブアプリケーション開発

・お客様ビジネスへの深い知見や先進デジタル技術を活用したアプリケーションの開発・展開をクラウドネイティブアプローチを通して推進し、お客様のデジタル変革を支援

クラウドネイティブ環境の拡充

・自社クラウドネイティブ環境S-Cred⁺の適用拡大
・マルチクラウドに適応したクラウドネイティブプラットフォームの更なる整備



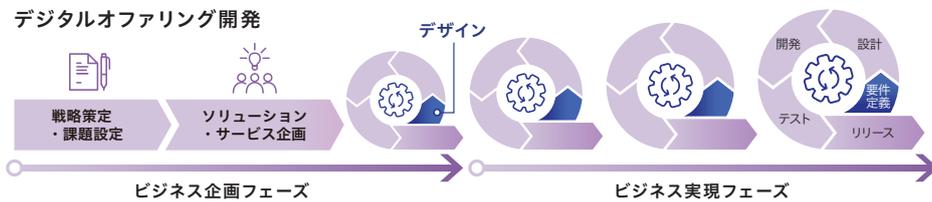
UXデザインとテクノロジー・ビジネスの融合

市場の期待が多様化する現代社会において、市場のニーズや期待を早期に理解し、それを製品やサービスの設計に反映させることで、新たな価値を市場や社会に対して提供することが重要となっています。

SCSKグループでは、ビジネス企画フェーズからUXデザインを取り入れるなど、デザイン思考を積極的に取り入れたアプローチを進めるとともに、先進デジタル技術の特性・特徴を活かした体験価値の設計を行うことにより製品やビジ

ネスサービスにおける付加価値の実現を図ります。このようにビジネス領域とテクノロジー領域にクリエイティブ領域を融合させるために、UXデザイナーがビジネスアーキテクトやエンジニアと緊密に連携できる社内体制を整備しています。

このような取り組みから、今後さらに革新的なサービスをお客様とその顧客に対して提供し、社会全体の発展にも貢献してまいります。



ビジネスチェーンを支えるサイバーセキュリティサービスの高度化・拡充

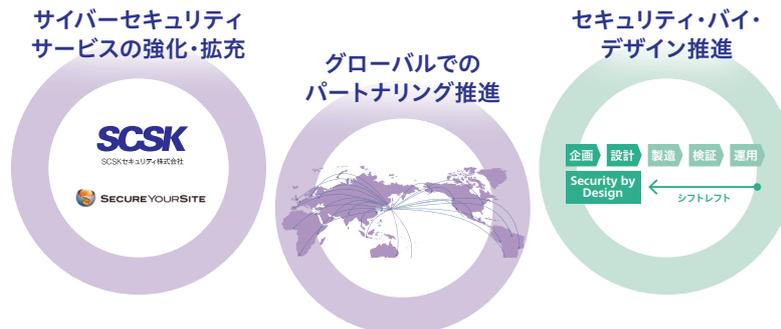
多くの企業では異なる思想で設計された複数の製品の組み合わせにより、脆弱性が生じやすくなっています。また、先進デジタル技術の利用上の盲点をついたりAIを悪用したりする新たなサイバー攻撃手法や、サプライチェーンをはじめとする企業間の事業連鎖（ビジネスチェーン）に対するサイバー攻撃などが増加しています。

SCSKグループは、様々な製品ベンダーの先進技術を活用する「プロダクト事業」と豊富なコンサルティング実績を基にした「サービス事業」を融合し、「SCSKセキュリティ株式会社」を設立しました。SCSKセキュリティに技術と知見を集約し、お客様の抱えるセキュリティ課題に対して適切な組み合わせでソリューションを提供する「Secure Your

Site」を展開しています。

また、引き続き、グローバルセキュリティ先進ベンダーの開拓や連携を推し進め、最新のサイバー攻撃対応策のノウハウと技術を獲得し、サイバーセキュリティサービスのさらなる強化と拡充を目指します。さらに、全社標準「SmartEpisode Plus」に「セキュリティ・バイ・デザイン」の考え方やゼロトラストモデルを取り入れることで、当社グループの製品・サービスにおけるセキュリティ対応を強化します。

このように、サイバーセキュリティ対策を内部要因と外部要因の両面から高度化し、社会生活や企業活動における安心・安全を提供いたします。

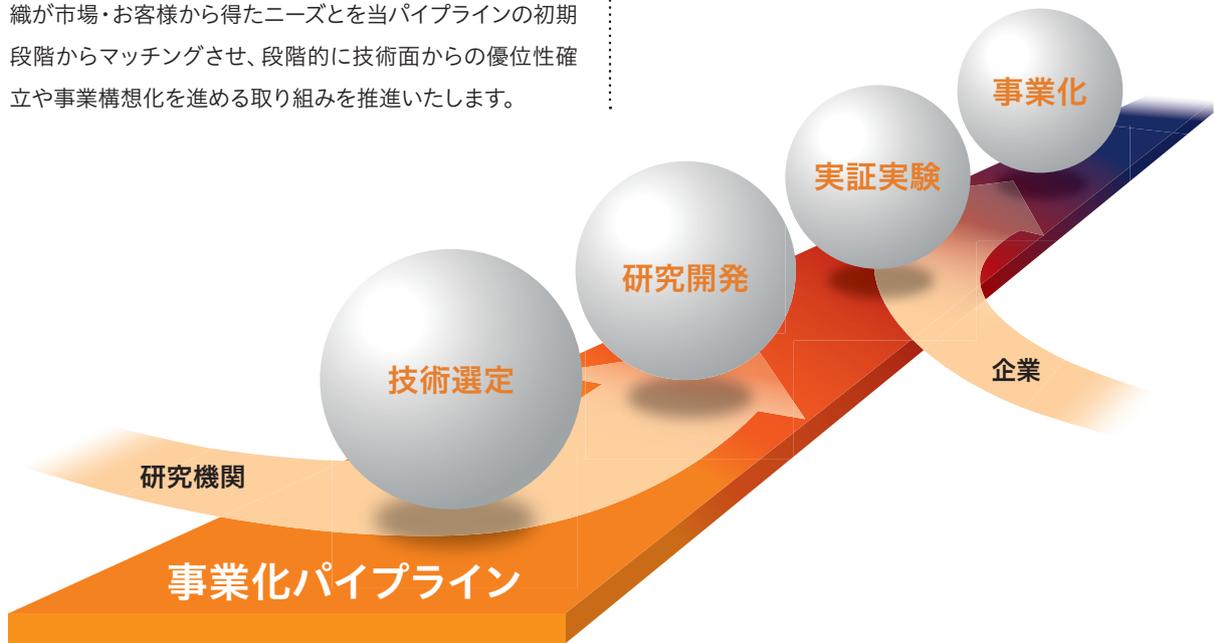


技術共創による先端技術の事業化推進

SCSKグループでは、研究開発の専門組織を設置しており、先端技術の迅速な事業適用に積極的に取り組んでいます。「2030年共創ITカンパニー」の実現に向け、先端技術領域における共創を強化しスピーディな事業化を促進いたします。

新たな技術を早い段階から把握し、事業活用に向けた技術開発から事業化までを一体となって推進するために、パイプライン・マネジメントを取り入れており、パイプラインを構成する各ステージにおいてステークホルダーとの関係を強化することにより技術共創を加速いたします。当社グループの研究開発組織からのシーズ（技術の利用価値）と事業組織が市場・お客様から得たニーズとを当パイプラインの初期段階からマッチングさせ、段階的に技術面からの優位性確立や事業構想化を進める取り組みを推進いたします。

この事業化パイプラインでは、オープンイノベーションを基軸に、研究機関・外部企業（スタートアップなど）との共同研究やアライアンスを通じて、先端技術への対応力の強化を図ります。さらに、お客様との密なビジネスコミュニケーションから実証実験や事業化段階での共創も加速させ、具体的なビジネスユースケースを検討しながらプロトタイプを洗練させる進め方を採用し先端技術の事業化を進めます。



すでに当社グループでは、市場において事業利用が進みつつある先端技術領域で、様々な技術共創を推進しています。

Blockchain技術の活用として、その利用形態の一つであるNFT技術を活用した地域共創を通じて「地域×スポーツ×NFT」と銘打ったスポーツチームとチームファンとのエンゲージメントを高めるサービスに取り組んでいます。また、デジタル地域通貨サービス「Region Ring®」を通して経済的・社会的価値を創出するサービスを具現化し、地域課題の解決に向けて取り組んでいます。

デジタルツイン/メタパースの領域においては、製造業のエンジニアリングチェーンを中心に事業化を推進しており、また、音声認識や物体検出等の技術を統合したマルチモーダルAI

を活用したデジタルヒューマンの実現による更なる価値創出・課題解決に向けた実証実験も進めています。

量子コンピューティングの活用に関する研究開発にも継続的に取り組んでおり、独自アルゴリズムの開発や住友商事「QX(Quantum Transformation)プロジェクト」、産学連携の取り組みへの参画など、量子技術を活用した事業高度化や新事業創出を目指す取り組みを推進しています。

市場に現れる多種多様な技術について、当社グループは有用性を見極めや活用に向けた技術開発を進め、社会に対して新たな価値を提供し続け、地域社会の活性化や新しいビジネスモデルの創出、さらにはグローバルな競争力の向上をお客様とともに実現します。

デジタルオフリングビジネスを支える技術知財

市場環境は急速な変化を遂げており、企業はその変化に迅速に対応することが求められています。また、デジタル技術の進歩は日々加速しており、新たな価値を市場や社会に提供し、競争力を維持・強化するためには、これらの技術を事業に活用することが必要です。

当社グループは、多様な業種業界のお客様に対するITサービスや日々の事業活動の中で得られるデジタル技術に関するノウハウから技術知財を蓄積し、最大限に活用する取組みを進めます。蓄積した知財を産業・業務に特化せず横断的に活用することも推進し、新たな価値を創出するとともに、進化するデジタル技術が適用された製品・サービスをお客様に提供することを目指します。

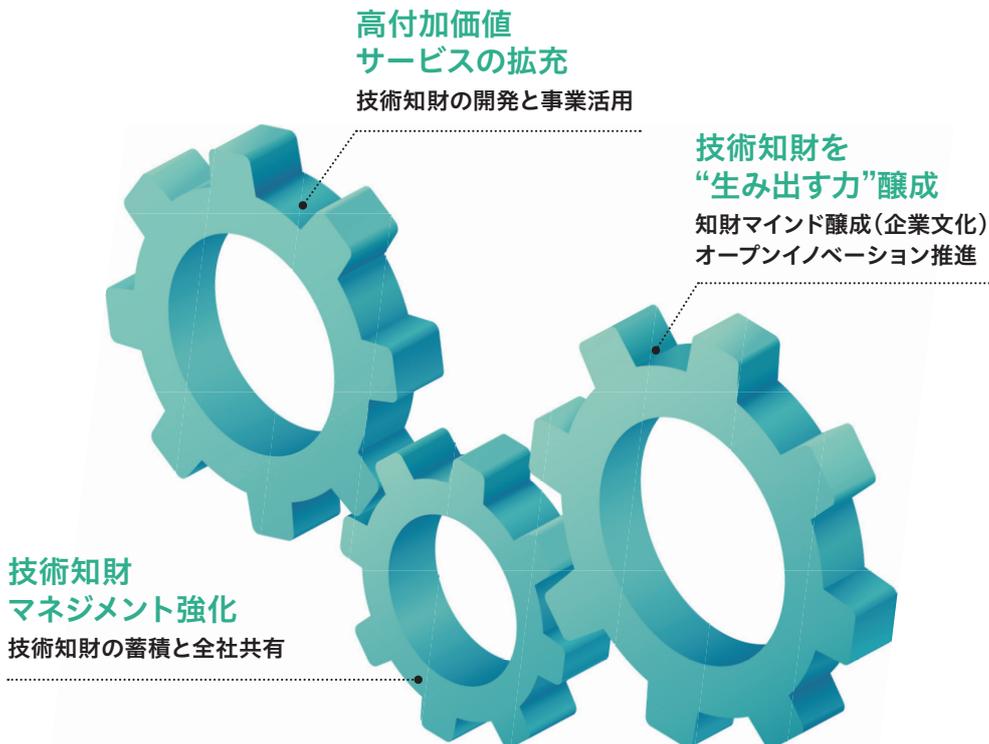
技術知財は、「技術ビジョン2030」におけるデジタルオフリングの三要素（先進デジタル技術、技術知財、技術共創）の中でも特に重要な位置を占めています。当社は、積極的に技術知財を創出し、革新的な製品やサービスを提供することで、お客様のビジネスが市場の急激な変化に迅速に対応できるようサポートします。

技術知財の創出と活用を支えるために、既存の知財専門組織を強化し、各事業組織においても推進体制を整備

します。この体制により、事業活動の中で得られるナレッジから価値のある技術知財を創出し、最新の技術知財を活用できる環境を整えます。

また、経営、知財専門組織、各事業組織が一体となって推進する体制も構築します。経営層は「技術知財の開発・活用の方針策定やモニタリング」を、知財専門組織は「制度・ルールの整備」を、各事業組織では「技術知財の創出」と「技術知財を活用した製品・サービスの開発・展開」を担当します。この全社的なPDCAサイクルの確立により、技術知財の開発・活用を加速させる技術知財の全社共有や高付加価値の製品・サービスの実現を推進します。また、技術知財の創出や活用を当たり前とする企業文化の醸成も進めます。

これらの取組みを通じて、当社の技術知財を活用した高付加価値な製品やサービスを提供し、お客様が市場環境の変化に迅速に対応できるよう強力にサポートしていきます。また、当社の技術知財を共有することで、社会全体としても技術革新が促進され、持続可能な成長と発展に寄与していきます。



デジタルケイパビリティの強化・拡充

先進デジタル技術の専門家集団 デジタルCoE

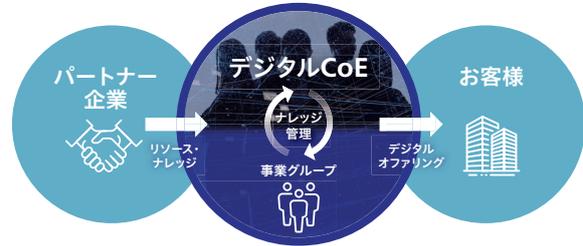
SCSKグループは、全社を横断するデジタルCoE (Center of Excellence) を設立しました。このデジタルCoEは、ナレッジ管理とデジタルオフアリング案件支援の2つの主要な活動を行います。

まず、ナレッジ管理では、先進デジタル技術を用いた開発案件から得られた知識を体系的に蓄積・管理し、それを新しいサービスや開発案件に適用します。これにより、お客様に常に最新技術と知見を活用したサービスを提供します。

次に、デジタルオフアリング案件支援では、実践的なデジタル人材の育成と事業組織のデジタル案件対応力を強化します。この支援を通じて、デジタル技術の利活用や案件遂行に関わる様々な知見・ノウハウを各事業組織に移転させることで、全社的なデジタル技術への対応力

を強化します。

これらの取り組みにより、サービス提供にとどまらず、お客様の事業全体のデジタル化を推進する強力なパートナーとなることを目指します。また、デジタルCoEが蓄積したナレッジを広く共有することで、デジタル技術の進展による新たな価値を社会に広めます。



高度デジタル人材・協業パートナーの強化・拡充

急速に変化する市場のニーズと多様化する社会課題に対応するため、高度デジタル人材の強化・拡充が不可欠であると考えています。デジタルオフアリングを支える高度デジタル人材の拡充に向けて、当社グループでは採用・育成における取り組みを強化しています。

採用面では、国内外の研究機関や大学・大学院とのリレーションを強化するとともに、柔軟な働き方や競争力のある報酬パッケージを提供することで、優秀な人材が活躍できる環境を整えています。また、中核人材のキャリア採用を積極的に推進し、ベテランの専門家を迅速に戦力化する体制も築いています。育成面では、デジタルCoEの枠組みによる実践型デジタル人材育成を進めると同時に、先進デジタル技術領域における教育・研修制度や評価・報酬制度も整備し、持続的な人材開発を実現します。

協業面では、DX/UX領域を専門とする上流のコアパートナーや、先進デジタル技術領域でのグローバルパートナーリングを強化しています。これにより、お客様のビジネス戦略検討から深く関わるとともに、先進デジタル技

術を活用した新しい価値の創出に向けた取り組みを推進していきます。

当社グループは、デジタルケイパビリティの向上への多面的な取り組みにより、「デジタルオフアリング集団への変革」を目指すとともに、人的資本の価値向上にもつなげています。

